



# 木曽川下流自然観察会

テーマ 「早春の花を見よう」

日時 2016年3月13日(日) 9:30~12:00 晴のち曇

参加者 一般:8名(うち子ども3名)、指導員:5名

昨年4月から定例観察会を始めて12ヶ月目となり、季節ごとのフィールドの様子がわかってきました。3月になって、タンポポなど春の花が咲き、チョウなども姿を見せ始め、観察のネタが増えてきました。今回はどんな色の花が多く咲いているか注意して回ることになりました。久しぶりに小学生以下の子ども3名も参加し、元気な声が響きます。

堤防道路の前でコブシが咲いていました。下に落ちた花卉の匂いを嗅ぐと爽やかな芳香がします。後でハクモクレンの匂いも嗅いでみましたが同様に芳香でした。同じモクレン科のホオノキやタイサンボクなども果物のような匂いがします。

河原に降りると植栽されたトサミズキの薄黄色の花が咲いていました。よく似た花にヒュウガミズキがありますが、トサミズキは一つの房につく花の数が多くと葯の色が赤味を帯びていることで見分けられます。この木にガガイモの蔓が絡み、実が残っていました。多くは昨年秋に割れて種子を飛ばした後の殻でしたが、一部まだ割れていない実があり、子どもたちはその中に入っている綿毛のついた種子を飛ばして遊んでいました。

河原では総苞片が反り返った外来のセイヨウタンポポと反り返らない在来のニホンタンポポを比べて、その違いを確認しました。

河原の地面や樹木の枝に先月程ではありませんが、けっこうツグミの姿が見られました。また、ヒバリが空高く轉っていて春の気配十分です。上空にはノスリも舞っていました。

上流に向かって進むと、アブラナ科の小さな黄色い花が咲いていました。昨年、調べてケナシヌナズナだったと説明したところ、茎にも葉にも毛があるが、どこから「ケナシ」の名がついたのか質問を受けました。さて、どうだったかその場では分からず、帰ってから確認したら、果実に毛がないところからついた名であることを思い出しました。

ここでは、子どもたちが捕虫網でベニシジミを捕まえました。暖かくなって蛹から羽化して飛び出したものです。堤防道路ではナナホシテントウも見つかりました。

大野極楽寺公園ではシメとイカルの群に会い、しばらくその姿を観察しました。この辺りでは冬季にはこれらの鳥がよく見られる場所だということが分かりました。

池の近くで見かけない木の実が枝に残っているのを見つけました。3枚の三角形の苞片で作られたホオズキのような形状で、内側に黒い種子が3個付いています。公園なのでいろいろな樹が植えられています。スマホでネット検索してもらったらモクゲンジであることが分かりました。大きな図鑑を持ってこなくても調べられる便利な時代になったものです。

さて、今回観察できた花を色別にあげると次のとおりでした。

白(7種) : ミチタネツケバナ、ナズナ、オランダミミナグサ、ユキヤナギ、シロツメクサ、ウメ、ハクモクレン

黄(6種) : ノゲシ、トサミズキ、ニホンタンポポ、セイヨウタンポポ、ケナシヌナズナ、サンシュユ

ピンク(5種) : コブシ、スズメノエンドウ、ジンチョウゲ、ウグイスカグラ、サクラ sp

赤~紫(5種) : ホトケノザ、ヒメオドリコソウ、カラスノエンドウ、ボケ、ヤブツバキ

青(2種) : オオイヌノフグリ、タチイヌノフグリ (報告: 齋竹)

<その他観察できたもの>

鳥: トビ、キジバト、ヒヨドリ、ムクドリ、ウグイス(轉り)、ハシブトガラス、ハシボソガラス、モズ、ダイサギ、コゲラ、メジロ、ホオジロ、ジョウビタキ、シロハラ(声)、スズメ 昆虫: ツマグロヒョウモン(幼虫)



(トサミズキの花)



(モクゲンジの実)



(観察会のようす)